

【第2回静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練 災害ボランティア図上訓練】参加報告レポート 静岡県ボランティア協会

日時：平成19年2月24・25日 会場：静岡市城内中学校体育館 鈴木光昭作成、野本編集 Ver

浜松市社会福祉協議会 鈴木光昭さんから報告レポートが届きました。
また、編集、PDF加工しましたので今後の活動に役立ててください。

訓練経過 1

2月24日午前中 会場設営

・13:30～開会挨拶：静岡県、静岡県V協会
・オリエンテーション、日程説明、訓練概要説明：県V協会 清水氏

・参加者自己紹介
(参加グループごと、西部地区に参加)
訓練チーム構成

・県方面本部（県職員）
県本部（県社協）
東部4チーム（賀茂含む）
中部3チーム、
西部1チーム（湖西、菊川、袋井、浜松）

東海地震による被害想定について
賀茂・東部・中部・西部の地域防災局から説明。

県災害ボランティア支援センターとは
：県V協会 鳥羽氏より



訓練 1

訓練前提を学ぶ・参加者共通理解
：富士常葉大学 井野教授より

(1)図上訓練の説明
(2)演習：被害状況の地図の落とし込み
(3)演習：市町災害ボランティア本部立ち上げ状況を考える

西部地区ではグループ参加者の湖西市・菊川市・袋井市・磐田市・浜松市浜松・浜松市浜北、天竜それぞれに市町ボランティア本部を設置した想定とした。インターネットへの書き込み(東海地震ドットネット)。

顔の見える関係づくり 懇親会

訓練経過 2

2月25日

訓練 2

県災害ボランティア支援センター立ち上げに向けた状況確認

・tokaijishin.net 及び WIDIS のデモンストラーションと説明
：大妻女子大学 干川教授より

訓練 3

県内外の災害ボランティアの連携による支援活動を考える

【第2回静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練 災害ボランティア図上訓練】参加報告レポート 静岡県ボランティア協会

日時：平成19年2月24・25日 会場：静岡市城内中学校体育館 鈴木光昭作成、野本編集 Ver

<その1> 県災害ボランティア支援センター立ち上げ訓練

- ・参加者：湖西、浜松（浜北・春野・細江）、磐田、袋井、菊川、御前崎、磐田市にある西部防災局の西部支援センターとパレット（Z a Z aシティ）の浜松支援センターの2つを設置するという想定（天竜川で担当エリア分けした）で実施した。
- ・総括・広報・情報・記録・地図作成の役割分担をし、事務局からの指示書に対応していく。
- ・孤立地域を佐久間・水窪と想定し、飯田ボランティアとの情報伝達を実施。
- ・被害の大きい新居・舞阪エリアをボランティアセンター未設置と想定し、県本部を通じ県外団体との連絡調整を行った。

<その2> 県災害ボランティア本部・情報センター情報伝達訓練

- ・県社協・県ボラ協会が本部を担った。情報に対してのスタッフ不足によりパンク状態であった。

<その3> 県外災害ボランティアによる支援訓練

- ・東日本と西日本の2チームに分かれ静岡県への支援方策の検討を行った。
- ・バックアップセンターとして東日本が東京、西日本が豊橋に支援センターの設置想定。

図上訓練における成果と課題

- 想定：県西部災害ボランティア支援センターを磐田市西部防災局に設置、
- ・担当エリア 天竜川以东（磐田市・袋井市・掛川市・菊川市・御前崎市・森町）
- ・県浜松災害ボランティア支援センターを浜松市Z a Z Aシティパレットに設置
- ・担当エリア 天竜川以西（浜松市・湖西市・新居町）

成果

支援センターの機能を体感できた。

地域を越えて、ある程度共通認識の下、協議検討することができた。

どのような情報をどう発信するか学習になった。



課題

図上を活かしきれなく、情報伝達におわれてしまった

支援センターの機能が拡大してきている。

【第2回静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練 災害ボランティア図上訓練】参加報告レポート 静岡県ボランティア協会

日時：平成19年2月24・25日 会場：静岡市城内中学校体育館 鈴木光昭作成、野本編集 Ver

市町ボランティア本部と支援センターの連携のあり方。

県災害ボランティア支援センター設置についての課題
交通情報などの情報の一元化。

県外団体と協働しての支援センター運営の可能性。

人員配置について

実際に支援センターを運営していく上でボランティアのみでは難しいのでは行政防災スタッフの配置については再度検討する必要がある。

また、市町社協職員やボランティアの配置について、配置する上での枠組み。

実務的な対策を推進する方法。

県外団体との連携

東京、愛知県を中心に山口県や大分県等とも関わりができて収穫があった。

西日本チームは豊橋市にバックアップセンターを設置し、各団体が連携し西部地区エリアを。

支援する想定で行った。

受け入れ側の体制整備が求められる

三遠南信連携について

栗田氏（震災がつなぐ全国ネットワーク代表）の計らいにより、豊橋ボランティ

アコーディネーター会と NPO 飯田ボランティア協会のメンバーと顔をあわせる機会となった。



協力関係をもって進めていくことがお互いに確認された。

来年度以降
震災がつなぐ全国ネットワークが音頭を取り具体的な支援方法を検討する連絡会を開催する運びとなっている。

全体所感

政令市移行の浜松市には、通常想定をしていた市町災害ボランティア本部に加え、湖西・新居も含めた広域拠点機能が求められることが想定される。

社協として災害ボランティアに対する体系を明確にし、それに伴う資機材の整備やボランティアコーディネーター等の確保が急務の課題となる。

浜松市内の中でもこのような訓練実施をし、検証をしていくことが必要と考えます。